みささぎ
奈良大学図書館報
第29号
2019. 9

CROSS OVER

『市町村史』というもの　―地域を学ぶ出発点―

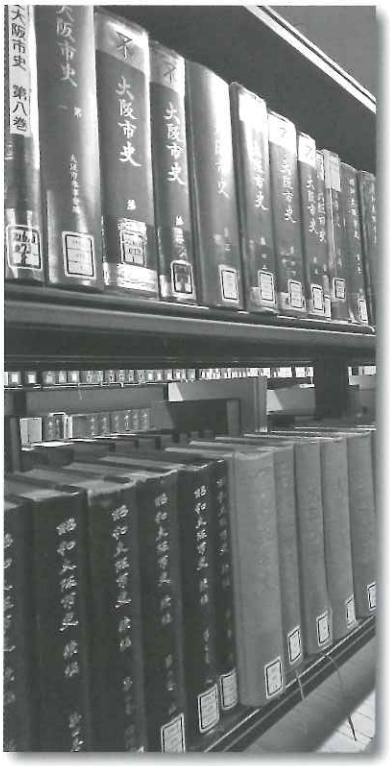
図書館の１階には『○○県史』、『△△町史』といった本を集めている一角があります。よく『市町村史』などと呼ばれていますが、国会図書館のHPをみると、次のように書いてあります。

自治体が発行した都道府県史・市町村史（以下、自治体史と呼びます）は、地方文書（じかたもんじょ）などの地方史料を翻刻して収録したり、地域の歴史について編年順に記述したり、特定分野（人物、寺社、民俗、文化財など）についてまとめるなど、各自治体の正史に位置づけられるものです。

明治時代以降、日本で最初に刊行された自治体史は、『大阪市史』とされており、大正４年（1915）までに全５巻７冊が完成しています。編集責任者は、当時、東京商科大学（現一橋大学）教授でまだ28歳であった幸田成友（幸田露伴の弟）でした。ヨーロッパ各地の市史を参考にして編さんを進めたそうです。８年がかりで収集された膨大な関係史料は、この市史の刊行後、『大阪編年史』全27巻（索引含む）として活字化されました。大阪市史は、その後も何度か新たに作られており、現在も最新のものが刊行中です。

さすがに町民・庶民の町として発展してきた大阪だけあって、自らの町の歩みを後世に残すことにも早くから使命を感じていたのでしょう。

こうした自治体史には、決められた形があるわけではなく、１冊で完結しているものもあれば、多いものになると10冊を超える大巻物も見られます。都道府県史レベルになると、地域の歴史について研究している専門家を編さん委員に委嘱し、時代や分野ごとに専門部会を設けて分担で執筆し、本編とは別に「史料編」や「文化財編」などを加えて全体を構成していることが一般的です。もちろんその場合には、数年にわたり関係史料の調査はもちろん、発掘調査や有形・無形にわたる文化財調査を行って、より新しく専門性の高い内容が実現されます。



反面、そのような自治体史ですから、若干、内容に精粗の差があり、一部ではありますが、執筆担当者の独自の研究視点や解釈に基づく内容が盛り込まれていたり、学界の通説からはずれる内容であったりする場合もあるようで、時にはその取扱いに注意が必要なこともあるともいわれています。それはともかく、まず自分の出身地のことや、地域のことについて調べるときに、手に取ってみると、意外に知らなかった町の歴史や文化財のことに気づかされることも多いものです。

（奈良大学図書館長　関根　俊一）

一般社団法人日本考古学協会が図書館を視察

4 月 12 日　一般社団法人日本考古学協会の谷川章雄会長、近藤英夫副会長、高麗正事務局長、長瀬衛前事務局長が来学され、図書館を視察されました。

展示責任者である坂井秀弥教授（文学部文化財学科）の案内により、企画展「考古学を築き支えた調査研究書　―日本考古学協会寄贈図書　61,799 冊から―」をご見学されました。また、集密書架に所蔵の同協会より寄贈された 6 万冊を超える資料を実際にご覧になる等、館内を視察されました。

図書館企画展「絵と色紙の『源氏物語』」

本学文学部国文学科・松本大講師の企画により、6 / 4 ～ 7 /16 に企画展「絵と色紙の『源氏物語』」が開催されました。

これまでの『源氏物語』関連の展示では、「絵」に焦点をあてたものが多く、色紙に書かれた「詞（ことば）」は注目されることが少なかったのですが、最初に人々が魅了されたのは『源氏物語』の織り成す詞の美しさです。今回は、選び抜かれた詞と絵を一対に味わう文化芸術である「色紙」と、物語の場面を描いた「色紙絵」、各場面を描きその場面に対応する詞を付した「源氏物語絵」などが公開されました。

また、物語の各巻ごとに本文の一部を抜き書きした写本『源氏物語詞散（ことばちらし）』、奈良大学所蔵の『源氏物語図屏風』（右隻）もあわせて公開され、好評を博し、盛況のうちに会期を終えました。

図書館企画展「『花園院宸記』の世界 ―鎌倉末期の激動を直視した天皇の証言―」

花園天皇（1297～1348/ 在位 1308～1318）は自筆の日記を残した。その原本は、長く伏見宮家に伝存し、現在は宮内庁書陵部に所蔵されている。

一部欠巻（年月）が存在するが、延慶 3（1310）年 10 月から元弘元（1332）年 11 月に至る 23 年間の記事がある。時代は鎌倉時代の末期、寺社の強訴はやむことを知らず、花園の譲位をうけて即位した帝（後醍醐院）による鎌倉幕府打倒計画が進んでいく、そんな激動期を直視し、冷徹に事態を分析して論評する場面も少なくない。

その一方で、王家の伝統を基盤としながら、花園自身も知的快楽の場を好み、日記にはさまざまな文芸活動の記録も載る。

さて、奈良大学図書館では、その原本を忠実に複製した『花園院宸記』全 35 巻（思文閣出版）を昨年度までに購入、整備した。すでに、その史料的重要性から、『列聖全集』、『増補史料大成』、『史料纂集』などの刊本が普及しているが、墨色や筆勢、添削の跡など、原本からでなければ得られない情報はきわめて多数、多彩である。

今回は、全 35 巻のなかからテーマの異なる記事を載せる 11 巻を選んで展示した。日記を通じて花園院の人物像に触れる機縁を開くことができていれば幸いである。

2019 年 7 月　展示担当史学科有志

学生選書ツアーを開催しました

6 月 22 日、ジュンク堂書店奈良店にて学生選書ツアーを開催しました。学科・学年の異なる、計 10 名の学生が参加、時間をかけてそれぞれ思い思いの図書を選びました。

選んだ図書が納品され始めると、図書を実際に手にとって見ながら、ＰＯＰ作成に励みました。7 月下旬より図書館入口フロアの学生選書コーナーに、手作りのＰＯＰとともに展開しています。もちろん貸出もできますので、ぜひご覧ください！

開催会場のジュンク堂奈良店様でも、9 月 24 日より、選書された本と力作ぞろいの手作り POP による奈良大学学生選書フェアを実施されています。こちらもあわせてご利用ください！

図書館統計（2019年3月末）

日本考古学協会寄贈資料の受入が完了したことが反映しており、蔵書冊数が55万冊になっています。

相互協力では、依頼数が約90件の増加となりました。

入館者数は若干の減ですが近年では平均的な数の減少となっています。

年度	平成29年度（2017）	平成30年度（2018）	増減
開館日数	275	275	0
入館者数	91,167	89,761	▲ 1,406
図書所蔵数	549,022	554,341	5,319
雑誌タイトル数	6,413	6,418	5
貸出総数	49,397	45,093	▲ 4,304
内　学生※	44,929	40,213	▲ 4,716
相互協力利用（依頼）	283	375	92
相互協力利用（受付）	647	589	▲ 58

※　通信教育部生を含む

返却ポストはじめました

閉館している間も図書を返却できるように、返却ポストを設置しています。

図書館入口自動ドア横に設置していますので、ご利用ください。

返却ポストの設置にともない、貴重書や劣化の激しい図書は、専用の貸出袋に入れて貸出しますので、ご返却の際は返却ポストには入れないで、必ず貸出袋のままカウンターまでお持ちください。ご協力をお願い致します。

後　記

やっと完成しました図書館報『みささぎ』29号をお届けします。2019年度は元号「令和」の制定に始まり、令和館開館や50周年記念式典などの学内行事も控えています。図書館も返却ポストの設置など、2020年度に向けて新しいことをじわじわ開始していきます。

本誌発行にご協力いただきました、文化財学科関根教授、史学科外岡教授、国文学科松本大講師には、深く感謝をいたします。学生選書にご参加の皆さま、選書からPOPの作成ありがとうございました！次回の参加をお待ちしています。

次号は2020年２月頃に発行予定です。

（編集担当）

発行：令和元年９月30日
編集：奈良大学図書館　奈良市山陵町１５００